

# SORA

web magazine 2018.mar. vol.96

# Palau

micronesia

Travel



女子旅に人気! [MAP CLICK!](#)

オアシスので極上パラオ・ダイビング!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

パラオで一番大きな自社ダイビングセンターを誇るオアシス。日本人女性オーナーの気遣いが随所に見られるサービスや施設は、今、ノンダイバー&ダイバーの女子旅に人気。心地よい空間と気軽に話せる女性ガイド陣がいるので、安心して、のんびりとダイビングライフを楽しむことができる。パラオの海をストレスフリーで楽しんでみよう!



## まず驚いたのが早朝体験ダイビング!

パラオに到着した夜に、翌日のスケジュールを確認すると、「今、早朝体験ダイブが人気なので、ぜひ取材して欲しい」と説明を受ける。翌朝、7時前にダイビングセンターに行くと、若い女子が体験ダイビングのビデオ(約5分)を見ている。画面の中でお話しているのは、若きガイドの美優さん。ゲストは、6時30分にリゾートでピックアップされたとのこと。ビデオが終わると器材を付けて、ショップ前の桟橋で練習。足の届く場所なので、安心して初めての水中呼吸などを体験する。その後、ボートで10分ほどの沖に行く。ポイントに着くと、「青い! 透き通っている!」と感嘆の声が聞こえる。そこでも簡単な説明を受け、ボートからバックロールでエントリー。水面に浮いて、私に笑顔を向けてくれる。少し遅れてエントリーすると、女性ゲストはロープを持ち、耳抜きしながら潜降していた。そして水中ツアー。初めて見る海の世界に心ときめいているのが、全身から伝わってくる。慣れない中性浮力に翻弄されて、ガイドさんが見せてくれるクマノミを必死に見ようとしている。潜水時間は約20分から25分。今回は2日間、美優さんとローカルインストラクターのジェイソンに同行したが、ゲストのスキルによってコース取りが違った。というよりも、美優さんとジェイソンの個性が現れていたのかも。美優さんはきめ細やかなサービスで、彼女自身、ゲストの「安心して潜れた!」という感想が嬉しいようで、リラックスして潜れるように心掛けてのこと。確かに、美優さんと潜り終えたゲストは「途中で不安になった時、しっかり説明してくれたので、安心して潜れました!」などの感想が聞けた。ジェイソンは、ゲストが上手だったのもあるが、より広い範囲を回り、まるで普通のファンダイブのような感動をゲストに与えていたように思える。両方のガイドングの違いは、見ていてとても楽しめた。どちらが良いとかではなく、それはそれでゲストのどちらにも、感動は響いていると思う。

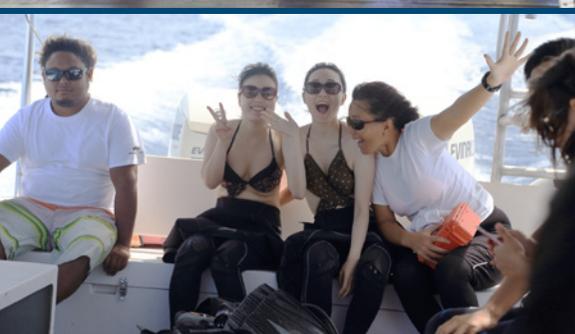


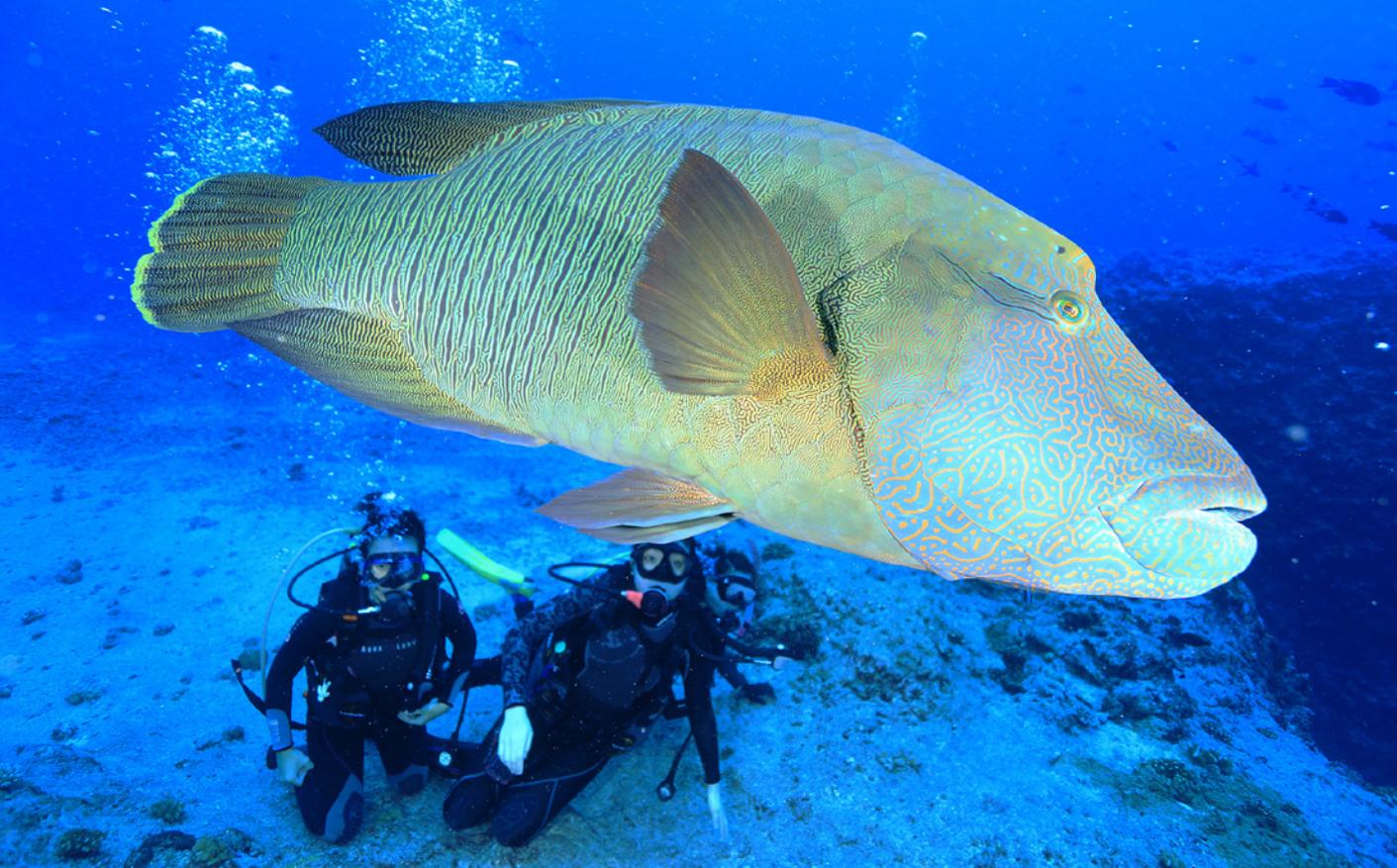


## 毎朝、女子旅は、早朝体験ダイビング!

そして何よりも驚いたのが、3日の朝も3名の日本人女性が、早朝体験ダイビングにエントリーしていたということ。パラオ自体、女子旅が最近増えているということだけど、そこまで女子に興味を持ってもらえているのは嬉しい。早朝で未知なる体験を済ませ、その後は、ロックアイランドツアーなどに参加したり、旅先での時間を有効に使える。また、オアシスでは午後以外洋体験ダイブも開催していて、参加される方も多い。ジャーマンチャネルの浅場で潜り、グレイリーフシャーク、ラッキーだったらマンタが見られる。また亀が多いポイントのゲメリスウォールなどにも連れて行ってくれる。2日目の早朝体験ダイビングに同行した時、自分なりにポイントのポテンシャルを知りたくてサンゴなどを確認したが、とても素晴らしかったので、終わった後に美優さんにポイントの名前を聞くと「セントカーディナル」と教えてくれた。「なんだ! ちゃんとしたポイントやん!」となるほどだった。この早朝体験ダイブにはダイバーの友人も同行できる。ノンダイバーとパラオに行っても、時間を有効活用しながら、ダイビングを楽しめるので、パラオに来るみんなにとってもお勧めです。ちなみに、早朝体験ダイブを終えてリゾートへの見送りは9時ごろになるとのことでした。1日が長くなる(笑)!

micronesia  
**Palau**  
*Travel* ミクロネシア・パラオ





**micronesia**  
**Palau**  
*Travel* ミクロネシア・パラオ



## もちろん本格的ダイビングも オアシスにお任せあれ！

オアシスが所有している大型のダイビング専用のスピードボートで、ブルーコーナーやブルーホールまで、所要時間は約40分。ロックアイランドの景色や、少し強いけど(笑)心地よい風に吹かれながらポイントまでビューン！ まずは大人気のブルーコーナーへ。パラオに来るダイバーにとって、絶対聖地のブルーコーナー。一度は是非潜ってみたい。とにかく魚群の多さに驚くが、何よりも、憧れのギンガメアジやバラクーダの群れと簡単に会えるのが嬉しい。ブルーコーナーに潜るには、上げ潮と下げ潮によって潜り方が違う。その潮の向きや速さによって魚群が集まる場所も異なり、潜るたびに景色も変わる。ガイドのジェイは、「ブルーコーナーに1日、3本潜ってもいいよ。例えば、1本目はゆるい潮の流れでのんびりと。そして2本目は少し早くなって、3本目は凄い流れの中を。そうするとメジロザメとの距離も違ふし、全然違うダイビングになる」と教えてくれた。美優さんは、「豪快なドロップオフ沿いに泳いでいくと、ギンガメアジの群れだったり、バラクーダの群れに近づいていくのが大迫力なので楽しい」と教えてくれた。他にヨスジフエダイの群れや、最近また人懐こくなったナポレオンもいる。

ブルーコーナーで外洋を眺めていると、窓枠の中に描かれた整った海を連想する。  
海の中で会いたいお魚たちを1フレームに収めることができる。

micronesia  
**Palau**  
Travel ミクロネシア・パラオ



# 砂地の魔法・ジャーマンチャネル

潮の上手からエントリーして、サンゴのパッチリーフが点在する砂地を泳いでいくと、前方から数匹のメジロザメが現れる。そこはクリーニングステーションになっていて、着底すると何度もメジロザメが目の前までやって来てくれた。ブルーウォーターでは、ギンガメアジやクマザサハナムロが群れている。ガイドの美優さんが行きましょと合図をしたので付いていくと、大きなクリーニングステーションがあり、そこには1枚のマンタが優雅に泳いでいた。距離を置いて観察する世界中からやってきたダイバーから、一身に羨望の眼差しを受ける。マンタが一番だけど、私が素敵だなと思ったのが、砂地とギンガメアジなどのコラボレーション。白い砂地の上で舞うギンガメアジは、撮影甲斐がある素敵な被写体。少し優しいトーンの撮影も可能になる。他にも小さいジョーフィッシュ、ヤノダテハゼ、カニハゼなどのマクロの生き物も充実。潜り方によって見えるお魚が変わってくるのが面白い。

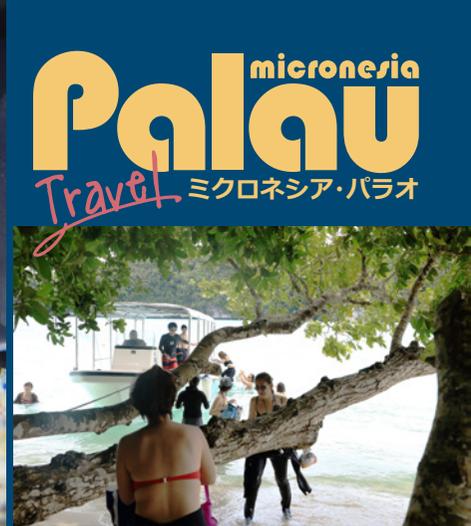




## 今回、もっともエキサイティングだったのが、 ニュードロップオフ！

ニュードロップオフに到着して、ボートから顔を付けて、潮の流れを確認していた美優さんが、「うあ！ ミヤコテングハギが群れてます！」と興奮気味に教えてくれた。すぐに機材を背負い、ジャンプイン。リーフ沿いを進んで行くと、向こう側に、ごちゃごちゃ群れる黒い集団を見つける。すると、勢い良くこちらに向かってきた。カメラのファインダーが黒いお魚でいっぱいになる。でも良く見ると、シッポの付け根部分のオレンジ色のワンポイントが鮮やかに浮かび上がる。彼らはある程度の範囲を行き来しているようだ。観察していると、最初数匹だったメジロザメが、時間の経過と共に数が増え、約40分後には十数匹になっていた。移動するミヤコテングハギに常に襲いかかるのではなく、なんとなくパトロールしながら様子を伺っている感じ。たまに群れに突っ込んで、捕食のような行動を取ってくれるが、バクッと啜る瞬間は捕らえることはできなかった。それでも、その群れとサメの存在は海中では圧倒的で、思いもよらない幸運な出会いに心が弾んだ。ミヤコテングハギは、繁殖のために群れ、2月3月にニュードロップ、ブルーコーナー、シアスコナーなどで見られると聞いていたが、半年周期で、産卵行動があるとも聞いた。とにかく、今回もっともラッキーな出会いだった。パラオの海はやはりすごい。今回、ミヤコテングハギにしか注目しなかったが、通常、流れがある時のフッキングポイントでは、マダラタルミが群れ、GTが突っ込んできたりして、ブルーコーナーのミニ版と形容される。棚上が上がれば、マクロ系のアカネハナゴイやオドリハゼなどのマクロの生き物も面白く、流れがないときでも棚上で楽しめる。流れがゆるやかな時は、棚の上の奥まで行って遊ぶことができる。そうすると大きなかめやネムリブカに会える。

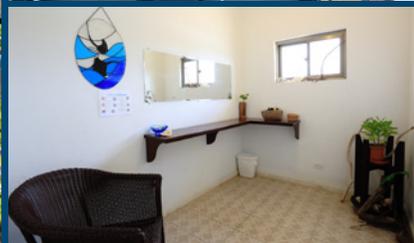




## ビッグドロップオフでマクロ三昧!

浅瀬の棚上にまず心奪われた。水路のような地形が、何か物語の始まりのように感じさせてくれる。そこにお魚たちが群れ、静かな風景だけど、とても豊かな海を感じさせてくれる。急なドロップオフを壁沿いに泳いでいく。驚いたのは、壁のカラフルさ。ホヤやカイメンのコンビネーションが美しい。そこにキャンディーケインドワーフゴビーやベニハゼの仲間がいて、とてもフォトジェニック。赤、黄、緑と、こんなに素敵な壁がパラオにあったなんて、驚き。他にもニチリンダテハゼ、クダゴンベ、ハナダイの仲間などマクロの生き物を楽しみながら進んでいく。途中、穴の中に住む小さなネムリブカを見せてもらう。そして、浅瀬でタイマイの子供にも会えた。十二分にマクロとワイドを楽しんで、1ダイブを終えた。





## オアシスは、パラオにある別荘というイメージを持ってもらいたい。 そして、「おかえりなさい」と言いたい。(スタッフ談)

オアシスは、陽気で気遣いのできる日本人、ローカルガイドも魅力の一つだが、それと同じくらい自慢したいのが、海風が通る素敵なダイビングセンター。コロールに位置し、中心地の街まで2、3分というアクセスの良さ。海に面した施設は解放感があり、明るい。海に行く前は、十分なスペースで準備ができ、また帰って来た後は、時間を忘れてゆっくりできるのが嬉しい。ウェットスーツを洗った後は、片手にビールを持ちながら、ログ付けや談笑。そしてオアシス自慢の夕焼けの時間を迎える。屋外には4つのシャワーや女子専用パウダールームなども設けられている。「女子とビギナーに優しいお店です！ 女子旅、大歓迎！ そして、ファンタイプの他に体験、リフレッシュダイブなども人気です、目の前のマングローブでカヤックやサップも体験できます！ いろんな海のアクティビティを体験してもらって、いろんな夢を見て欲しいですね。そして、店内ではバナナが食べ放題です！ 時には、「パパイヤも（笑）」とオーナーガイドの宮下美千代さんが話してくれた。パラオのダイビングセンターでは珍しく、wifi がフリーなのも嬉しい。

# オアシス・ハウスリーフが面白い

日中、外洋での3本のダイビングを終えて、ダイビングセンターに戻ってきた後も、楽しみは尽きない。ダイビングセンターの目の前にあるボート付き場周辺がオアシス・ハウスリーフとなっていて、水深5mほどで、実に様々な生き物に会える。マンジュウイシモチの幼魚、オイランハゼに似たピンクスペckルドシュリンブゴビー、ヘコアユなどが人気種。そしてハイライトはやはり、ニシキテグリの放精放卵。ニシキテグりは、水面からも見えるくらい多く居て、ガイド陣がその生態行動の観察を続けている。夕方にエントリーして、いつもよく集まる場所待っていると、ちょこまかとニシキテグリのオスとメスがやってくる。取材日は、残念ながらオス同士の戦いしか見られなかったが、かなりの高確率で、ニシキテグリの放精放卵を見ることができる。

micronesia  
**Palau**  
Travel ミクロネシア・パラオ



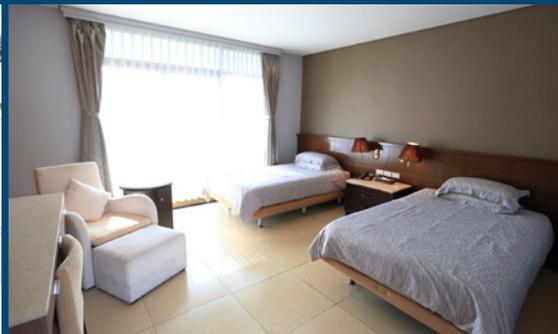
## オアシスの新人大型ガイド!? 大井美優(おおしみゆう)さんに、 パラオの魅力聞いてみた。

「パラオは、ゆったりとした時間の流れが好きです。ダイビング以外にも、カヤックやスノーケリングのガイドしているのですが、マングローブの中に入ったり、あとは、戦跡を紹介したりしています。どんどん色んなことを知ることによって、新しいパラオに出会えます。毎日、毎日、新しい新鮮なことばかりです。」とダイビングの魅力を聞いたつもりだったのに、すぐに他のアクティビティの話始めた可愛いガイドさんです(笑)。



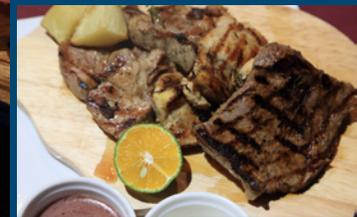
## ランドマークマリーナ

ダイビングショップオアシスの目の前にあるリゾートホテル。3階建て、全部屋数 26。スイートルーム 1 部屋、ツインルーム 18 部屋、ダブルベッドルーム 7 部屋。客室は広く、清潔感もあり、ダイバー向き。脱ぎ捨てたTシャツなどは、すべてクローゼットのハンガーにかけられるというサービスの良さに驚く。オーシャンビューに建つ立地条件で、隣はパラオ水族館。レセプションは、無料 wifi 使い放題。



## ジャイブレストラン

ロックアイランドなどのツアーを開催するインバックに併設するレストラン。日本人経営なので、安心してローカルフードが楽しめる。新鮮な魚が食べられるお店で、リーズナブルでお財布にも優しい。シャコガイ、空芯菜の炒め物、陸蟹のココナツ和え、バラクーダの餡かけなどがオススメ。マングローブ蟹のガーリックソテーも大人気。飲み物が豊富、タロイモ焼酎やワインメニューも豊富。生歌演奏もある。



## とりとり

街中に位置し、気軽に立ち寄れる純和風レストラン。カウンター式のテーブルでスタッフとも話しを交わしながら楽しめる。焼き鳥などの鳥料理はもちろん、朝獲れた魚を使った豪華刺身盛り合わせは特にお薦め。日本人シェフもいて、現地在住の日本人にも人気が高い。店内は無料 wifi 使い放題。

